

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	戸建住宅設計小委員会	主 査 名：福田展淳 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：岩田 三千子
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	戸建住宅の熱・光・空気・音環境について、環境工学の立場から、その先端研究の調査を進める ・戸建住宅の居住環境を議論し設計に活かすための情報発信を行う。 特に近年、高気密・高断熱化、24 時間換気、省エネ改修など戸建て住宅の熱環境や空気環境に関する環境工学的側面が実務設計に大きな影響を与えており、その設計指針について、環境工学分野での関連論文をまとめ、情報発信を行う。 1 年度：これまでの議論を踏まえ公開勉強会の開催 2 年度：講習会／シンポジウムの開催 2 年度：出版活動を行う	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：福田展淳 (北九州大学) 幹事：隈裕子 (湘南工科大学) 委員：尾崎明仁 (京都府立大学) 高偉俊 (北九州市立大学) 中島祐輔 (工学院大学) 木村孝博 (きむら設計)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	115,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：－

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	夏季の床下結露問題を討議した結果を踏まえ、建築家協会九州支部北福岡会と共同で公開勉強会を開催した。達成度 85%。
委員会活動の問題点・課題	委員が東京、九州とまたがっており開催に際し旅費がかかり、年 2 回 (九州 1 回、東京 1 回 (予定)) の開催となった。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	今年度は、夏季の住宅床下の高湿化および結露問題、に関し、九州での研究と関東での研究を紹介し、状況を確認した。 また、この問題に関し、日本建築家協会九州支部と協力し、「住宅設計に関する勉強会」を開催した。参加者は、建築家協会に所属する建築家であったが、大変好評であった。 今回は、住宅設計が法規通り行われていても、床下に関しては、夏季結露を招く可能性があること、また、住み方によって、床下結露の状況が変わり、夏空調をあまり使わず、高湿の外気を取り入れると、居室や床下が高湿環境となり、カビや結露の可能性が高まること、床の断熱材を厚くすると結露の可能性が高まることなどを指摘し、設計者してどのように対応すべきかで様々な意見が交わされた。本来、省エネルギーとしては有効な手段が、結露や高湿環境を生み出す、懸念があることを指摘した。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。